

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 11 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520741

研究課題名(和文) 藩地域アーカイブズの基礎的研究 - 新発田藩を中心として -

研究課題名(英文) A Basic Study on Regional Archives of Han (Domains of Daimyo) : Mainly in the case of Shibata Han

研究代表者

原 直史 (HARA, Naofumi)

新潟大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：70270931

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：豊富な史料を伝えつつ従来利用が必ずしも容易でなかった新発田藩の史料について、藩政史料や蔵書、大庄屋史料などの基礎的な目録情報を整理し共有化していくことで、そうした史料群の全体を複合的な「藩地域アーカイブズ」として捉え、その全体構造を明らかにするための基礎を確立することができた。さらにとりわけその中で、他藩や幕府領との錯綜がすすむ新発田藩領の特徴を反映して、藩が直面する様々な問題が周辺他領との多様な関係の中で形成され展開すること、したがって「藩地域アーカイブズ」もこれに対応した特質を備えるに至ること、等を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：We surveyed and shared the basic lists of historical documents or books of Shibata Han (domain government), which was not always easy to use, therefore we could establish the basis to grasp the whole such materials as a complex "Regional Archives of Han", and to clarify the whole structure of the archives. And above all we found out that, to reflect the characteristics of the Shibata domain which was very complicated with other domains or Shogunate territory, issues of domain government were formed and developed in variety of relationship with neighboring areas, and therefore "Regional Archives of Han" also had similar characteristics.

研究分野：日本近世史

キーワード：藩地域 アーカイブズ 支配錯綜地帯 新発田藩

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究は、2000年代以降、「藩社会」「藩世界」あるいは「藩地域」をキーワードとして多くの成果が発表されてきた、「藩」研究の動向を念頭に置いて構想された。

これらの研究は、藩の行政機構が授受作成した「藩政アーカイブズ」の調査研究の進展を踏まえ、また1980年代以降進展した地域社会論と領主支配の契機の接合を目指したところに共通した特徴があった。

本研究ではこの点に学びつつ、さらにこれを発展させるため、研究分担者兩人(浅倉・岩本)が既に端的に獲得していた「蔵書」と「藩政アーカイブズ」の接合の視点を組み込むこと、研究代表者(原)が従来主に研究対象としていた地主・町村史料と「藩政アーカイブズ」をあわせて把握することにより、複合的な「藩地域アーカイブズ」の特徴を明らかにできるのではないかと構想された。

(2) こうした複合的な「藩地域アーカイブズ」の把握にあたり、新発田藩は、慶長期以来の膨大な藩政史料が現存すること、および領内・近領における地主制の展開の結果、豊富な地主史料が各地に現存することから、格好の対象である。しかしながら新発田市立図書館に主に収蔵されている新発田藩政史料は、収蔵の経緯等から全体像の把握が困難で、従来必ずしも利用が容易ではなかった。

本研究はこのような新発田藩の藩政史料を中心に、全体像の把握を目指しつつ、適宜そのデータを公開することで、地域内外の研究者の便宜をはかることには大きな意味があるとして、構想されるに至った。

2. 研究の目的

本研究は、以下の3点を目的としてすすめられた。

(1) 新発田藩政アーカイブズの全体構造の解明。

新発田藩政史料は古くから研究対象とされてきたが、近年の記録史料学の進展を踏まえた藩政アーカイブズとしての研究把握は、従来ほとんどなされていなかった。したがって本研究の中核にまず据えられたのは、現存の史料群の全体把握と、記録史料の作成・授受・管理蓄積のあり方の解明に基づいた、藩政アーカイブズの全体構造の解明であった。

(2) 蔵書と藩政記録を総合した「書物」アーカイブズの性格把握。

上述したような、蔵書と藩政記録を総合して「書物」アーカイブズとして把握する方法的枠組みについて、その有効性を検証するべく積極的に両者の関係を探っていくことが目指された。

(3) 地主・町村史料との総合に基づく「藩

地域」アーカイブズ概念の提示

上記(1)(2)で示される藩政機構内部に蓄積されたアーカイブズのあり様に、領内・近領の各種史料との総合的検討を加えることではじめて、真に藩地域の社会構造の特質を示す「藩地域」アーカイブズとしてこれを把握することができる、という方法的見通しに基づき、こうした形での複合的な「藩地域」アーカイブズ概念を提示し、その日本近世社会研究における有効性を明示することを、研究の究極的な目標とする。

3. 研究の方法

本研究は、研究代表者・研究分担者それぞれが、藩政アーカイブズ研究部門、蔵書アーカイブズ研究部門、地主・町村アーカイブズ研究部門をそれぞれ担い、共同の調査・研究会の開催により相互に連携をとることによって遂行された。各部門は具体的には下記のような方法で研究を進めた。

(1) 藩政アーカイブズ研究部門

中核となる新発田市立図書館所蔵藩政史料については、既刊史料目録の電子化と照合を中心に作業を行った。これを踏まえて必要な史料の撮影・電子化を行い、分析を行った。さらに関連史料の調査を行い、成果を蓄積した。

(2) 蔵書アーカイブズ研究部門

新発田市立図書館等新発田市周辺に現存する旧藩蔵書については、本研究開始以前の研究分担者の調査により一定の知見が得られていたが、さらに数回の補充調査を行なった。また名古屋大学図書館、岩瀬文庫、天理図書館等、各地に分散所蔵されている旧藩蔵書の調査を行い、総合的に分析をおこなった。

(3) 地主・町村アーカイブズ研究部門

領内における既知の地主史料・町村史料の情報を収集した上で、新潟大学図書館所蔵白勢家文書などについてアーカイブズ分析の可能性を探った。こうした作業の中で、結局は新発田市立図書館所蔵の新発田組大庄屋斎藤家文書の重要性に着目し、集中的に撮影・電子化および分析を進めることとなった。

以上の各部門の作業を踏まえ、随時情報交換を行ったほか、公開の「新発田藩研究会」を期間中に3回開催し、情報の共有と論点の深化につとめた。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

本研究の成果としてあげられるのは主に以下の諸点である。

基礎的目録情報の電子化・公開

まず新発田藩政史料の既刊目録類について電子化作業を実施し、未だ限定公開ではあ

るが、関係者にこれを公開した。とりわけ従来書式上検索が困難であった新発田市立図書館編の『郷土史資料目録』を電子化し、他の家老家所蔵史料目録等とあわせて検索可能としたことは、大きな意義を持つ。ここにおいて、藩政アーカイブズの全体を把握しつつこれを多様な角度から検討する上で、必須の前提を確立することができたといえる。

個々の史料の電子化・公開は限定的なものとなったが、その中でも蔵書を含む「御道具」の目録や、大庄屋の執務に関する帳面目録など、近世・近代に作成された目録資料を影印と翻刻で冊子化し公開することができた。これにより、従来あまり注意されてこなかったこの分野の研究に道をひらいたといえることができる。

書物アーカイブズの全体的把握

各地に所蔵される「蔵書」目録と、文書・絵図目録とをあわせて、『新発田藩溝口家書目集成』全4巻の編集をすすめて完成させたことは、特筆すべき成果である。これによりこれまで断片的に知られていた新発田藩における「書物」アーカイブズのありかたを、俯瞰して把握することが可能になった。また前述したように、上記集成に掲載しなかった道具目録類を『新発田藩道具帳集成』として独自に刊行し、研究史料の公開に資することとした。これにより書画・書物・道具がそれぞれ接点となりながら、藩主およびその周辺の文化的環境が展開していくありさまを探る手がかりを得ることが出来たことは、藩の「書物」アーカイブズ全体の態様を把握する上でも、有益な知見である。

支配錯綜地帯の特色に応じた藩地域アーカイブズの把握

上記で述べた目録情報の整備、近世・近代に作成された目録資料の発掘確認等に支えられて、新発田藩における「藩地域アーカイブズ」の全体構造把握をめざし、研究会等での議論を経つつ個々の分析を進めていった結果、以下のようにこの地域の特色が浮かび上がってきた。

例えば藩領内の組レベルでの地域的入用をめぐるテーマについての研究(後掲原直史「支配錯綜地域における地域的入用 新発田藩の万雑とその周辺」)では、組レベルのアーカイブズの特質を意識しつつ、従来看過されていた部分も含めて光を当てることができたが、特にこうした地域的入用の「改革」を藩が行おうとするに際し、周辺他領との比較の視点を獲得した領民との対峙の中で、行わざるを得なかったことを示した。

また藩政史料中の特徴的な一部分をクローズアップした研究(後掲浅倉有子「在番のアーカイブズ 新発田藩溝口家の高田在番に関する基礎的考察」)は、上知された他領への在番という特別な事項に関するアーカイブズがどのように形成されるかという問

題を明らかにしつつ、狭義の藩領支配に留まらない形で藩政の展開とアーカイブズの問題を論じた。

以上はつまり、新発田藩領が支配錯綜地帯の中にあるという条件の下で、藩地域がかかえる諸問題が常に周辺他領との多様な関係の中で形成され展開するという顕著な特徴をもつことを示しており、さらに「藩地域アーカイブズ」も、そのような特色を色濃く反映するものとして形成されるという見通しを得るに至った。

(2) 得られた成果の内外における位置づけ

本研究を通じて整備され共有が可能となった諸データは、本研究の中で組織された公開の「新発田藩研究会」とともに、今後の同藩研究の確実な基礎となるものであり、一定の好条件をもちながらさらなる発展が阻害されていた同藩研究の今後の進展は、日本近世史研究全体に大きく貢献することが期待される。

他方本研究の中で支配錯綜地帯における藩地域という論点が提示されたことは、ある地域の全体像を周辺他領との多様な関係という側面に着目しつつより豊かに捉える方法論として、重要な意味を持つと考える。

さらにまた、アーカイブズへの着目は一見して対象の静態的把握につながるかに思われがちだが、むしろアーカイブズがどのように形成されてその形をとるのかということがアーカイブズ論のひとつの要であることを考えるとき、むしろそれは歴史的・動態的把握の方法となり得ることを、本研究の全体が示したという点も重要であろう。

(3) 今後の展望

本研究が示した「藩地域アーカイブズ」の全体構造把握は、未だ荒削りであり展望の域を出ていない部分も多々ある。一方で上述した、支配錯綜地帯における周辺他領との多様な関係の中で形成される藩地域、という視点は、重要な意味を持つと考える。

もちろん支配錯綜地帯は全国に存在し、表高10万石未満の中小藩領においてはいずれも多かれ少なかれ周辺他領との関係は大きな問題であった。しかしながら越後においては、17世紀後期の高田領上知で10万石未満の諸領が分散する状況になったことにとどまらず、18世紀以降紫雲寺湯・福島湯の開発に伴い蒲原郡において頻繁に上知が繰り返され、19世紀には海防拠点の意味合いも含めた新潟上知がなされるなどの中で、所領の錯綜分散が顕著に進行していった。すなわち支配錯綜とはある時点の静態的なありようにとどまらず、歴史的な動態として進行する問題だったのであり、そうした様相が端的に表れる地域のひとつが、新発田藩地域であったととらえることができる。

こうした論点を踏まえてさらにこれを深めるため、本研究のメンバーは、平成27年

度～29年度の科学研究費補助金基盤研究(C)「支配錯綜地帯における藩地域論の展開 越後国新発田藩を中心に」を申請して採択された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

浅倉 有子「在番のアーカイブズ 新発田藩溝口家の高田在番に関する基礎的考察」、『国文学研究資料館紀要 アーカイブズ研究篇』、査読有、11号、2015、15-32頁

〔学会発表〕(計7件)

浅倉 有子「在番のアーカイブズ」、第3回新発田藩研究会、2014.12.20、新潟大学

原 直史「史料紹介・米倉村斎藤家文書「諸帳面録」」、第3回新発田藩研究会、2014.12.20、新潟大学

浅倉 有子「在番のアーカイブズ - 新発田藩溝口家の高田在番に関する基礎的考察」、第2回新発田藩研究会、2014.3.9、新潟大学

原 直史「支配錯綜地帯における地域的入用 - 新発田藩の万雑とその周辺」、第2回新発田藩研究会、2014.3.9、新潟大学

浅倉 有子「溝口家の近世・近代の文書・絵図目録」、第1回新発田藩研究会、2013.7.7、新潟大学

岩本 篤志「新発田藩溝口家蔵書目録小考」、第1回新発田藩研究会、2013.7.7、新潟大学

原 直史「新発田藩領における地域運営体制をめぐる諸論点 安宅俊介氏の近業に学ぶ」、第1回新発田藩研究会、2013.7.7、新潟大学

〔図書〕(計4件)

原 直史(編集・解説)『新発田藩大庄屋帳面録』、新潟大学人文学部原直史研究室、2015、107頁

關尾 史郎(編著)・原 直史他8名『環東アジア地域の歴史と「情報」』、知泉書館、2014、297頁(うち原 直史「支配錯綜地帯における地域的入用 - 新発田藩の万雑とその周辺」177 - 219頁を執筆)

浅倉 有子・岩本 篤志・原 直史(編集・解説)『新発田藩道具帳集成』、新潟大学人文学部原直史研究室、2013、133頁

朝倉 治彦(監修)・岩本 篤志・浅倉 有

子(編集・解説)『新発田藩溝口家書目集成』全4巻、ゆまに書房、2013、430頁、426頁、688頁、535+74頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

原 直史(HARA, Naofumi)

新潟大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号: 70270931

(2) 研究分担者

浅倉 有子(ASAKURA, Yuko)

上越教育大学・学校教育研究科(研究院)・

教授

研究者番号: 70167881

岩本 篤志(IEAMOTO, Atsushi)

立正大学・文学部・講師

研究者番号: 80324002

(3) 連携研究者

()

研究者番号: